結婚・誕生・新築・銀婚・ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ宣誓記念樹の植え方・育て方

● 肥後ツバキ（ツバキ科）

〔特　徴〕	肥後ツバキがいつ頃から栽培されはじめたのか定かではありませんが、今から１４０年ほど前の文献に約３０種の肥後ツバキの記録があります。今日にいたるまで肥後六花のひとつとして多くの愛好家によって守り育てられてきました。 花は一重で平たく花芯は梅芯、花弁は５～９枚、花色は赤花系（赤・紅・緋）白花系、淡紅花系（トキ・桜・桃）、錦花系（絞り）があります。花は早いもので２月、遅いもので４月上旬頃に咲きます。
〔育て方〕	★やや大きめの穴を掘り、腐葉土や堆肥を混ぜます。根を傷めないように丁寧にポット（ビニール製の鉢）をはずし、なるべく浅く植えます。植えたらたっぷり水を与え、乾燥や寒さを防ぐためシキワラをします。肥料は、油粕を大さじ一杯位根の周りにばらまきます。 ★鉢植えの場合は、ポット（ビニール製の鉢）をはずし、荒砂１、土１、腐葉土１の割合で混ぜた土に 浅植えします。水をたっぷり与え、根着くまで直射日光のあたらない所に鉢を置きます。 １ヶ月後、油粕を小さじ１杯位与えます。 ※毛虫（チャドクガ）カイガラムシ等の病害虫に注意して下さい。

● 肥後サザンカ（ツバキ科）

〔特　徴〕	肥後六花の一つである肥後サザンカは明治１２年に最初の花が作出され、その後次々に新花が作出されて現在に至っています。 花は一重大輪梅芯咲きを特徴としますが、八重や、千重咲きもあります。花色は、紅、濃紅、淡紅、桃、紅ぼかし、白があります。花期は１０月下旬より１２月で最盛期は１１月中旬頃です。
〔育て方〕	★やや大きめの穴を掘り、腐葉土や堆肥を混ぜます。根を傷めないように丁寧にポット（ビニール製の鉢）をはずし、なるべく浅く植えます。植えたらたっぷり水を与え、乾燥や寒さを防ぐためシキワラをします。肥料は、油粕を大さじ一杯位根の周りにばらまきます。 ★鉢植えの場合は、ポット（ビニール製の鉢）をはずし、荒砂１、土１、腐葉土１の割合で混ぜた土に 浅植えします。水をたっぷり与え、根着くまで直射日光のあたらない所に鉢を置きます。 １ヶ月後、油粕を小さじ１杯位与えます。 ※毛虫（チャドクガ）カイガラムシ等の病害虫に注意して下さい。

● キンモクセイ（モクセイ科）

〔特　徴〕	原産地は中国、熊本市と友好都市である桂林市を代表する樹木です。常緑の広葉樹で高さは３～９mになります。 庭木として、キンモクセイ、ギンモクセイがあり、香りの良いキンモクセイのほうが広く栽培されています。生垣用としても人気があります。 春に伸びた新芽に８月上旬頃花芽がつき、９月～10 月に香りの良い花を咲かせます。
〔育て方〕	★乾燥には弱いので適度に湿気があり、土の肥えた場所に植えます。植えたら支柱をたて、たっぷりと水を与えてください。 ★肥料は寒肥（鶏糞等）を根の周りに与えます。（あまり多くやりすぎると花付きが悪くなりますので注意して下さい。 ・潮害に弱く、多湿地では落葉したり、車の排気ガスが多い所では花がつかないことがあります。 ※毛虫（イボタガ）、葉巻虫（マエアカスカシノメイガ）、カイガラムシ、スス病等の病害虫に注意して下さい。

● ウメ（バラ科）

〔特　徴〕	中国原産の落葉高木です。日本に伝わったのは奈良時代以前で、万葉集にはウメに関する歌が100 首以上詠まれており、古くから日本人に親しまれている樹木です。 花は２～３月に香の良い花を咲かせ、６月頃実をつけます。一般的に梅干や梅酒などに適しているのは白梅で、紅梅は鑑賞用のものが多いです。
〔育て方〕	★肥よくな土壌を好み、日当りが悪いと花つきが悪くなるので日当りの良い場所に植栽します。 ★やや大きめの穴を掘り、腐葉土や堆肥を混ぜます。根を傷めないよう丁寧にポット（ビニール製の鉢）をはずし、なるべく浅く植えます。植えたらたっぷり水を与え、乾燥や寒さを防ぐためシキワラをします。 ※アブラムシ類、カイガラムシ類、アメリカシロヒトリ等の病害虫に注意して下さい。

● ハナミズキ（ミズキ科）

〔特　徴〕	1912 年、当時の東京市がアメリカにサクラを送り、その返礼として 1915 年にアメリカから寄贈されたのがはじめとされています。樹形が自然に整うので、剪定の管理手間がかかりません。初夏に白や淡紅色の４弁の花が上向きに咲き、秋には実や紅葉を楽しむこともできます。
〔育て方〕	★夏の乾燥、痩せ地、日影を嫌い、湿り気（水はけ・水もち）の良い肥沃地を好みます。 ★乾燥や照り返しが強いと生育が悪いので、幹や根元に直射日光（特に西日）を受けないで樹幹部に日が当る場所を選び植栽します。また、水はけの良い場所を好むため、水はけの悪い場合は、川砂などをまぜて水はけをよくして下さい。乾燥を防ぐ為に、根元に下木や下草を植えて乾燥を防ぎます。（夏場の乾燥を防ぐため、マルチングをしても良いです。） ★施肥は冬に、堆肥、腐葉土 、化成肥料を混ぜたものを施します。 ★鉢植えの場合は、赤玉土（小～中粒）６：腐葉土２：川砂１の割合で混ぜた土に浅植えします。水をたっぷり与え、根付くまで西日の当たらない場所で午前中いっぱい日光が確保できる場所に鉢を置きます。
〔その他〕	★木が若いうちは、枝もよく伸び勢いもあります。長く伸びすぎた枝や（日当りが悪くひょろひょろになった枝）には花が咲きませんので切り落とします。（適期は落葉した１２月から３月までの間に行います。） ※カミキリムシ等の被害を受けやすいので、防除に留意して下さい。

● シマトネリコ（モクセイ科）

〔特　徴〕	日本では沖縄県に、また中国、台湾、フィリピンからインドに分布する常緑小高木です。雌雄異株、花期は５月～6 月頃で大きな花序に小さい花を多数つけます。暑さや湿度に強い反面、寒さにやや弱いので、冬の植え付けは避けます。 日当たりの良いところであれば室内でも育てられるため、観葉植物としても人気です。下通りアーケード内に植栽されている樹木です。
〔育て方〕	★乾燥に弱いが過湿にも弱いので水はけの良い土に植え土が乾燥したら水を与える程度でよいでしょう。 ★乾寒風の吹き抜ける場所に植えるのは避けてください。 ★室内での鉢植えは、暖房や冷房が直接あたる場所を避け、明るい場所に置き土が乾いたら水を与えて下さい。定期的に霧吹きなどで葉水を与えるとよいでしょう。

● モミジ類（カエデ科）

〔特　徴〕	モミジもカエデも同じカエデ属の仲間で、古くから庭木として多く用いられ、たくさんの種類があります。ほとんどの園芸品種は、日本の野生種が改良されたものなので育てやすく、庭木、鉢植えのどちらでも栽培できます。 秋の紅葉だけでなく、春の芽立ちも紅や黄、緑など変化に富んで美しいです。
〔育て方〕	★半日陰から日なたの、水はけの良い肥よくな土壌を好みます。日陰では幹の太りが悪くなり、美しく紅葉しません。 ★乾燥に弱いため、乾燥しやすい鉢植えでの栽培は特に水やりに注意してください。 ※カミキリムシ、ケムシ類等の病害虫に注意して下さい。

● ソメイヨシノ（バラ科）

〔特　徴〕	日本の国花であるサクラの代表的存在です。桜前線の観測対象木としても有名。エドヒガンとオオシマザクラの交配種で、江戸時代末期に、江戸の染井村の植木屋が「吉野桜」と名づけて売り出したものが人気を博し、明治以降日本中に広がりました。 高さ１０～１５mになり、３～４月に咲く花の色は最初淡い紅色を帯びていますが、咲き進むと白くなります。
〔育て方〕	★日当たりと水はけが良い土地を好み、日陰や湿り気の多い土地では生育が悪いです。 ★株に対し大きめの植え穴を掘り、堆肥や腐葉土を元肥に多めに入れてから高植えにして下さい。サクラは枝を切られることを嫌うので基本的には剪定は不要です。 ※初夏から秋にかけて毛虫が発生しやすいので注意して下さい。

熊本市役所　環境局　環境推進部　環境共生課
（電話：３２８－２３５２）